

「会員の英知と情熱を結集し」

平成31年度 第57回岩手県小学校長会総会開催



第305号

岩手県小学校長会
代表 佐藤 卓
事務局 TEL.019(623)8955
盛岡市紺屋町2の9
盛岡市勤労福祉会館2F
印刷 富士屋印刷所



第五十七回岩手県小学校長会総会が、四月十九日(金)、県下各地区から二百九十三名の会員(会員総数三百十二名)が出席し、都南文化会館(キャラホール)で開催されました。総会で選出された佐藤 卓会長(仙北小学校)は、「明日を拓く 岩手の絆」をしっかりと心に刻み、岩手の復興教育を推進していくとともに、子どもたちの笑顔と輝く未来を願い、校長の使命を自覚し教育的識見を高めていくこと、情報を共有し、連携を深め取り組んでいくことを確かめ合いたい、と熱い思いを参加者に訴えました。

総会の内容は次のとおりです。

総会Ⅰ(午前)

一 開会の言葉

坂川孝志(久慈)

二 国歌斉唱

三 会長代行挨拶

佐藤 卓会長代行

四 感謝状・記念品贈呈

退会者五十八名

(出席四名)

五 退会者代表挨拶

外山 敏 氏(前会長)

六 来賓祝辞

(一) 岩手県教育委員会

教育長 佐藤 博 氏

(二) 岩手県市町村教育委員

会協議会

会 長 千葉仁一 氏

※ 代読 副会長

佐美 淳 氏

七 岩手県教育委員会行政説明

(一) 教職員課首席経営指導

主事兼小中学校人事課長

金野 治 氏

(二) 学校教育課首席指導主

事兼義務教育課長

小野寺哲男 氏

総会Ⅱ(午後)

八 議長選出・署名委員委嘱・

書記任命

九 報告

十 議事

十一 新役員あいさつ

十二 閉会の言葉

新毛公生(二戸)

※閉会後に、理事・評議員合同会議並びに各専門部の合同会議が開催されました。



感謝状贈呈



総会提案



会員席

子どもたちの笑顔と 輝く未来のために



岩手県小学校長会

会長 佐藤 卓

暖かい春の風とともに、桜の開花の便りが県内各地から聞こえてくるようになりまし

た。本日ここに、第五十七回岩手県小学校長会定期総会を開催するにあたり、岩手県教育委員会教育長佐藤博様、岩手県市町村教育委員会協議会副会長佐々美淳様をはじめ、多数のご来賓の皆様をお迎えし、ご指導をいただく機会を得ましたことに、深く感謝申し上げます。

この三月をもって本会を退会されました五十八名の校長先生方には、三十有余年の長きにわたり、本県教育に情熱を注ぎ、その充実・発展に多大なご貢献をいただきましたことに深く敬意を表しますとともに、私ども後輩への温かいご指導に対しまして心から

感謝申し上げます。

そして、令和元年となる今年度、新たに五十四名の校長先生方をお迎えいたしました。誠に心強く思っております。新会員の皆様には、これまでの豊富な経験と実践を生かし、学校経営の責任者として地域に根差し、郷土いわたの復興を支える子どもを育てるべく、持ち前のお力を存分に発揮されますようご期待申し上げます。

現在、我が国は、知識基盤社会への新たな進展やグローバル化、少子高齢化等により、先を見通すことが難しい時代を迎えています。そのような中、来年度から全面实施される新学習指導要領において、持続可能な発展が実現できる未来社会の担い手として、子どもたちに必要な資

質・能力を育成するため、「社会に開かれた教育課程」を実現することが求められています。

また、三月には岩手県教育振興計画が策定され、子どもたちが地域とともにある学校において、自ら生き生きと学び、夢をもち、それぞれの人間形成と自己実現に向けて「生きる力」を身に付けることを目指し、具体的な推進方策が示されています。

私たち校長は、「生きる力」を育む教育を実現するため、明確な達成目標を掲げ、学校組織の活性化を図り、創意に満ちた特色ある学校経営に努めるとともに、いじめ・学校不適応問題の解消、人材育成、教職員の働き方改革など、直面する重要課題に立ち向かっていく必要があります。

その課題の解決のために大切なことを二つ挙げるとすれば、一つは、この教育改革や時代の流れを大きく俯瞰し、中長期的なビジョンをもつことです。五年先を見据えた学校像と戦略を明確にし、教職員で共有することにより、我が校の強みを生かした創造的かつ安定した学校経営ができ

るからであります。

もう一つは、そのビジョンを自分の言葉で語り、協働をつくることです。私たちが校長が学校経営の方向性や願いを熱意とともに示し、直面する課題に対して、保護者、地域、産業界、行政の力をお借りし、学校を支援する力として結果することにより、協働による解決が可能になるからであります。換言するならば、校長のリーダーシップによる「地域とともに歩む学校」づくりこそが、課題の解決のための道筋であると考えます。

昨年十月に、岩手県小・中学校長研究大会を、宮古地区校長会の皆様の多大なるご尽力をいただき、東日本大震災後初めて被災地区で開催いたしました。実行委員会からのビデオメッセージの中で、宮古小学校の児童会長さんが「私たちは震災後、経験し学んだことをしっかりと生かし、生まれ育った故郷の未来を明るくできるように地域に貢献できる大人になっていきたいです」と話してくれました。

誰も体験したことのない過酷な状況を経験し、また、震

災から八年がたっても児童の長期的な心のケアが必要とされている中、笑顔を忘れず、地域の未来を明るく照らし歩み続けようとする子どもたちのひたむきな姿に、改めて校長会としての責任の重大さを確認いたしました。

岩手県小学校長会は、震災以来、会員の総意として大切にしてきた「明日を拓く 岩手の絆」をしっかりと心に刻み、いわての復興教育を推進していくとともに、子どもたちの笑顔と輝く未来を願ひ、校長自らの使命を自覚し教育的識見を高めていく必要があります。そして、様々な教育課題を乗り越えていくため、この校長会という組織を機能させながら情報を共有し、共に連携を深め取り組んでいくことを、ここに改めて確かめ合いたいと思います。結びに、本日の総会の開催に当たり、多大なご協力をいただきました岩手県教育委員会、盛岡市教育委員会、また、総会の運営にご尽力いただきました盛岡市小学校長会、岩手地区小学校長会の皆様に対しまして、深く感謝申し上げます、挨拶といたします。

祝辞(要旨)

岩手県教育委員会

教育長 佐藤 博様



第五十七回 岩手県小学校長会定期総会の開催にあたり、県教育委員会を代表し、一言お祝いを申し上げます。

まずもって、校長先生方には、各学校の最高責任者として日々学校経営に御尽力いただいていることに対し、心から感謝を申し上げます。

東日本大震災津波から八年余、また、平成二十八年八月の台風第十号による土砂災害から二年八か月が過ぎました。今日まで、校長先生方には各学校の中心となって、各地域や本県教育の復興と発展に向け、献身的に取り組んでいただいていることに感謝申し上げます。また、あわせてこのような学びの場の復興を支えてこられた小学校長会の皆様の御尽力に対し、心から感謝と敬意を表します。

さらに、本年度、新たに校長の職に就かれた皆様には、本県の教育に新しい風を吹き込み、熱意と創造性をもって、教職員等との相互理解に努めつつ、学校経営に思う存分力を発揮されますよう御期待申し上げます。さて、本年度は、本県の学校

教育におきまして、大きな節目となる年であります。

皆様御承知のとおり、小学校は来年度、新学習指導要領が全面实施となります。

各小学校においては、新学習指導要領の趣旨の具現化に向け、カリキュラム・マネジメント等の視点から学校経営を進めるとともに、子どもたちの「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力」、そして「学びに向かう力、人間性等」がバランスよく育まれるよう、主体的・対話的で深い学びといった子どもたちの学びの在り方の充実に取り組んでいただいております。本年度はその一層の充実が期待されます。

また、県として新たに策定いたしました「いわて県民計画(二〇一九〜二〇二八)」と、教育分野の個別計画である、「岩手県教育振興計画」の始まりの年であります。これらの計画の推進に当たっては、岩手が持つ多様な豊かさやつながりの中で、子どもたちにふるさとへの誇りや愛着を育むとともに、「知・徳・体」を総合的に兼ね備え、変容する社会に適応し、社会を創造するための人間形成を目指し、「生きる力」をしっかりとりと育んでいきたいと考えております。その際、「いわての復興教育」の推進を始めとして、岩手だからこそできる教育、やるべき教育という視点な

ども取り入れながら取り組んでいくこととしております。

小学校の六年間は、幼児教育で培われてきた学びの芽生えから各教科等の特質に応じた学びへと、円滑に移行させ、資質・能力の育成を図りながら、中学校へつなげる重要な時期です。

各学校においては、教育活動を通して、学ぶことの意義や協力することの大切さなど、人間としての基礎・基本をしっかりと培い、「知・徳・体」を総合的に兼ね備えた人間形成に、引き続き御尽力いただきたいと思っております。

校長先生方には、夢と希望と勇気をもって、学校経営に当たられ、子どもたちが「この学校が好き」、「この先生に出会えて良かった」と思えるような魅力ある学校づくりに努められるとともに、教職員の人材育成にも力を注いでいただきたいと存じます。

県教委といたしましては、市町村教委との強固な連携の下に、学校をしっかりと支えていく考えでございます。校長先生方におかれましては、本県の教育行政の一翼を担っていただき、今後とも、岩手の子どもたちのより一層の成長のために、御尽力いただくことをお願い申し上げます。あわせて、県小学校長会のみならずの御隆盛を御祈念申し上げます。祝辞といたします。

祝辞(要旨)

岩手県市町村教育委員会協議会

会長 千葉 仁一様



(代読佐美淳様) 県内小学校の校長先生方が一堂に会し、平成三十一年度

岩手県小学校長会総会が、盛大に開催されますことを、岩手県市町村教育委員会協議会を代表し、心からお祝い申し上げます。御参会の皆様には、県内各地の小学校において、子どもたちの教育に心を尽くされ、本県の学校教育の充実と発展に御尽力いただいておりますことに、深く、感謝申し上げます。

また、この三月をもちまして御退職なされました皆様の、これまでの御労苦と御功績に対し、心から、感謝と敬意を表するものであります。加えて、今年度校長に昇任された皆様に心からお祝いを申し上げます。

さて、東日本大震災津波の発生から、八年が経過いたしました。県教育委員会では、十年後、二十年後の、岩手を支える人材を育成する目的から「いわての復興教育」を、県全体で力強く推進しております。岩手の復興・発展、そして、地域の防災を支える人材を育成するため、校長先生方のリーダーシップの下、各学校や地域の実情に応じた、様々な活動に取り組ま

て、復興に向けて明るい希望を、子どもたちや広く市民・県民に与えていただいておりますことに、重ねて感謝と敬意を表するものであります。

現在、新学習指導要領の平成三十二年からの全面实施に向けて、各学校では、移行期間における基本方針のもと、移行措置の学習内容を踏まえた、授業の計画的な実施に取り組みされているものと存じます。さらに、働き方改革に応じた業務の役割分担・適正化など、教育や学校を取り巻く状況は、大きな変革の時期を迎えております。

こうした中で、私たちがなすべきことは、保護者や地域の信頼に応える確かな教育を実現し、子どもたちに、生きる力を育むことでもあります。校長先生方におかれましては、教職員一人一人が、教育に携わっていることに責任と誇りを持ち、豊かな人間性と、深い専門性を発揮して、教育活動に邁進することにも、子どもたちが将来に向かって自己実現が果たされるよう、一層の指導をお願いするものであります。

教育現場が直面する様々な課題に対して、大いに指導力を発揮していただき、保護者や地域に開かれた学校運営を推進し、学校・家庭・地域が協力して、明るく、賢く、たくましい子どもたちの育成に御尽力いただきたいと存じます。結び、本会のみならずの発展と、皆様方の一層の御活躍と御健勝を祈念し、祝辞といたします。

行政説明の概要

教職員の定期人事異動等の状況について

教職員課首席経営指導主事兼小中学校人事課長 金野 治 様



- 1 人事関係の概略 () 内は昨年度比 異動総数は1,458名 (-61)
(1) 管理職 校長昇任 90名 (+11) 副校長昇任 92名 (+13)
女性管理職 校長 小学校51名、中学校 9名、義務教育学校0名:
全体の13.0%
副校長 小学校91名、中学校15名、義務教育学校1名:全体の23.1%
(2) 新採用 小学校教諭141名・中学校教諭85名、養護教諭22名、栄養教諭2名 (+11名)
来年度は230名程度の採用予定(養護教諭は30名程度、栄養教諭は若干名の採用予定)
他県からの受験資格を39歳から49歳に引き上げ
(3) 再任用 251名(29時間 115名、フルタイム 136名) (+54名)
2 少人数教育の推進について
少人数学級 35人学級を小学校では6年生まで拡充した。
3 人材育成について
資質の向上に関する指標 キャリア・ライフステージに応じた研修と人材育成となるよう積極的、効果的に活用する。
4 不祥事の未然防止について
昨年度の懲戒処分 10件 (-4件) 体罰事案が継続して発生した。
(アンガーマネジメント研修が2巡目に入る)
5 働き方改革に関して
担任の業務負担軽減のため、スクールサポートスタッフ(学習プリントの印刷等、担任の補助)を24名に増員(+11名)
小学校専科英語加配(英語の免許をもち、週24時間の外国語指導)を16名に増員(+10名)
職員のやる気と意欲を喚起して、学校経営にあたっていただきたい。県教育委員会として、全力で支えていきたい。

本県の義務教育行政推進上の現状と課題について

学校教育課首席指導主事兼義務教育課長 小野寺哲男様



一 学校教育指導指針から

(1) 岩手県教育振興計画の基本目標

「学びと絆で 夢と未来を拓き 社会を創造する人づくり」

学校教育においては、子どもたちが、地域とともにある学校において生き生きと学び、夢をもち、それぞれの人間形成と自己実現に向けて知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を身に付けている姿を目指す。取組の視点

・岩手だからこそこそでできる教育、やるべき教育の推進

・郷土に誇りと愛着をもつ心を育み、岩手で、世界で活躍する人材を育成

(2) 学びの場の復興の更なる推進 具体的な施策の内容は十二 子どものために、保護者や地域とチームワークをと り、思う存分学校経営にあ たってほしい。 県教育委員会が目指す具体的な指標

県では、県民一人ひとりがお互いに支え合いながら、幸福を追求していくことができ る地域社会の実現を目指し て、第一期アクションプラン を策定した。指標一覧に沿 い、各学校において、達成さ せるためにこれまでどおりで よいのか、どのような取組を 行うのか、を考え実施に向 かってほしい。

二 大切にしたい視点

学校は何のためにあるのか

・「知・徳・体」を総合的に 兼ね備えた、社会を創造す る能力を育てるため

・郷土を愛し、その復興・発 展を支える人材を育成する ため

なぜ、自分は教師の道を選 んだのか 続けているのか

三 心がけたいこと

(1) 目的と目標

(2) 人材育成

(3) マネジメント

(4) 全体と部分

(5) 鳥の目、虫の目、魚の目

(6) 「当たり前」に感謝し、 「当たり前」を疑う

大前提は、「命。そして、大切なあの人のために。」と いうことである。この大前提 の上に立って、どの子も、一 歩を踏み出し、伸びていける ように学校経営にあたって いただきたい。

大会宣言

岩手県小学校長会は、本会結成以 来、会員の英知と情熱を結集して、 問題解決に主体的に取り組み、着実 にその成果をあげてきた。 私たちは、東日本大震災発災後か らの会員の総意「明日を拓く、岩手 の絆」を決して忘れることなく、校 長としての使命と職責の重大さを深 く自覚し、「新たな知を拓き人間性 豊かな社会を築く日本人の育成」を 目指すとともに、「いわての復興教育」 の視点を踏まえた学校づくりを 推進し、県民の信託に応える責務が ある。

ここに、岩手県小学校長会会員の 総力を結集し、次の事項の実現に全 力を傾注することを、第五十七回総 会の総意をもって宣言する。

一 確かな経営理念のもと、「生きる 力」の育成や「生命尊重の精神」 を育む調和のとれた教育課程の 編成と、着実な実施、評価、改 善を行う。

一 被災地区の学校運営上の諸課題 を的確に把握し、情報共有する とともに、震災の教訓を未来に 語り継ぐ活動や、実態に即した 「いわての復興教育」を継続して 推進する。

一 校長自ら研鑽に励むとともに、 業務の改善による教育の質の向 上を図り、「ふるさとを愛し 共に支え合いながら未来を拓く 子どもを育てる岩手の学校教育」 を推進する。

一 自他の命を大切にしながら共に 生きる心の育成と人間尊重の精 神に基づく積極的な生徒指導の 充実を図る。

一 調査研究及び要望活動を組織的 に推進し、学校における働き方 改革を含めた教育諸条件の改善・ 整備のための取組を推進する。

一 広報活動の充実と会員相互の情 報交流に努めるとともに、関係 諸機関、団体との連携強化を図 る。

平成三十一年四月十九日 第五十七回岩手県小学校長会総会

地区校長会研究交流

堅固な連帯意識をもって情熱と誠の人づくりを発信する校長会

宮古地区校長会

一 はじめに

昨年度は、宮古地区において県小・中学校長研究大会を開催することができました。大会全体を通して当地区校長会の「堅固な連帯意識をもって情熱と誠の人づくりを発信する校長会」の姿勢が醸し出され、全体発表や分科会討議を通じて、学校経営や校長の在り方について学び合う充実した会にすることができました。

さて、宮古地区には、宮古市校長会、山田町校長会、岩泉町校長会、田野畑村校長会と四つの校長会の組織があります。平成三十一年度の学校数は、小学校が三十三校、中学校が十九校で合わせて五十二校です。しかし、児童生徒数の減少等により、今後学校統合が進む見通しです。

二 研修計画の概要

本年度の宮古地区校長会では、次の方針に基づき研修を進めています。

・校長としての識見、力量を高め、学校経営の充実・改善に資する研修を推進する。

・創意に満ちた特色ある学校経営の充実を図るとともに、今日的な課題への対応と学校教育の充実・改善に向けた研究推進に努める。

・関係諸機関、諸団体との連携を密にし、教育環境や教育諸条件の整備充実に努める。

三 研究部会構成の概要

今年度の研究部会構成（小学校三部会）と研究内容は次のようになっています。

第一部会（自立と社会性）
○児童の自立と社会性の育成を目指す学校経営の在り方
（四年度・三年度）

第二部会（評価・改善）
○教育活動の活性化を図る学校評価と学校運営の改善
（四年度・一年目）

第三部会（豊かな人間性）
※新テーマのもとで研究を進める。（三年度・一年目）
中学校部会（学校経営）
○生徒が安全・安心に生活できる学校経営
（四年度・最終）

四 県大会発表概要

昨年度の県宮古大会において、本地区からは小学校の二つの分科会で発表を行いました。

【組織・運営】

◆研究主題 教育活動の活性化を図る学校評価と学校運営の改善
「まなびフェスト」を生かした評価・改善の在り方

◆研究のねらい 活力ある組織・運営を実現するため、教職員の学校経営参画意識を高める校長の具体的な関わり方を明らかにする。

◆研究内容
○「まなびフェスト」を活用した専門性の向上
・勤務状況確認シートや学年、学級経営案への記載
○「まなびフェスト」を活用した組織の活性化
・ポトムアップによる「まなびフェスト」PDCA等

◆「豊かな人間性」
◆研究主題 豊かな人間関係を育む教育課程の創造と校長の在り方
「いきる」「かわる」を深めながら、道徳性を高める教育活動の推進を通して

◆研究のねらい 各校の道徳教育といわての復興教育の教育的価値「いきる」、「かわる」を深めながら、道徳性を高める教育活動の推進を通して

◆研究のねらい 各校の道徳教育といわての復興教育の教育的価値「いきる」、「かわる」を深めながら、道徳性を高める教育活動の推進を通して

「いきる」を深めながら、道徳性を高める教育活動の実践を交流することで、豊かな人間性を育む教育課程の創造と校長の在り方を明らかにする。

◆研究内容
○道徳性に関する各校の実態調査
○実践及び交流
・「経営目標や教育課程の改善」「教育活動の充実」「課程・地域との連携」に基づき実践し交流した。

・校長の関わりを「課題把握と計画」「明確なビジョン提示」「指導計画や活動の見直し・改善」「推進上の環境づくり」「職員との関わり」「関係者との連携」「活動の評価」と分類した。

今年度行われる全国連合小学校長会研究協議会秋田大会では、宮古地区から「組織・運営」についての発表を行います。たくさんのご意見ご助言をお願いします。

（宮古市立磯鶏小学校
校長 横手 勝美）

五 おわりに

今年度行われる全国連合小学校長会研究協議会秋田大会では、宮古地区から「組織・運営」についての発表を行います。たくさんのご意見ご助言をお願いします。

復興の礎音

一関地区校長会

一関地区は、平成二十年宮城・岩手内陸地震と平成二十三年東日本大震災と大きな被害が続きました。一関市は、この二つの災害を通して、「災害に強いまちづくりに取り組んでいます。住宅や宅地、公共施設等の耐震化、避難所の整備・充実、情報基盤の整備、情報伝達手段の構築を図っています。」

本校は、一関市の南東部にある藤沢町の北部に位置し、高台の上に校舎が立ち、平成十四年に木造二階建て校舎に改築されました。

震災当時は、大きな揺れに襲われました。校舎の梁が少しずれ、鉄筋部分と木造部分とのつなぎ目が少し浮き上がりましたが、大きな被害はなかったとのことでした。

当時の校長先生に状況を伺うと、今まで体験したことのない大きな揺れだったので、どこに避難させればよいか迷いながら、全員を体育館に避難させ、その後保護者へ連絡をし、迎えに来ていただいたそうです。一日学校を休校にし、弁当持参で学校を再開しました。停電が続いていたので、ご飯が炊けるか心配した

そうですが、ガス釜を使っている家庭が多く、全員弁当を持参することができたそうです。水道も藤沢町内は復旧が早く、思っていたより早く普段の生活に戻れたとのことでした。

一関地区では、四月にあつた二回目の大きな地震の時の方が、家やものが壊れた被害が大きかったとも伺いました。その後、横軸支援として、宮城県気仙沼市で被害の大きかった本吉地区に物資等の支援を行ったそうです。また、自衛隊に所属し、被災地支援を経験した保護者の方に、被災地に到着するまでの困難や非常食だけで生活した様子を聞き、被災地の実情に触れる機会を設けたそうです。震災後は、国道二八四号を整備し、一関市から陸前高田市にかけて復興支援道路として、昨年度は、室根バイパスが開通し、安全・安心な通行が確保され、緊急輸送道路としての信頼性を高め、幹線道路の機能向上が図られ、沿岸被災地の復旧・復興を支援し、物流の効率化による更なる産業振興や地域間交流の活性化などが期待されています。

また、道路沿いには、ソーラー発電が多く建設されています。平成二十七年年度から、

本校の裏にある山林を切り開き、ソーラーパネル二百五十基以上ある「メガソーラー」プロジェクトが進められ、一年間に二百三十万キロワット以上の電気を発電しています。本校では、復興教育として、平成二十六年度から、東日本大震災で被害の大きかった陸前高田市を訪問し、現地の様子を見学したり、講話を

2011.3.11 東日本大震災からの復興 今日から明日へ 一歩ずつ 一関地区

聞いたりすることにより、陸前高田市の現状を理解することとをねらいとして、四年生以上の児童で陸前高田市見学学習を実施しています。現地では、震災ガイドによる説明を聞いたり、気仙大工左官伝承館等の震災関連の施設を訪問したりしています。昨年度は、奇跡の一本松を見学し、気仙町で、平成二十五年に設

置された避難階段を見学しました。この避難階段は、安全でより迅速な津波避難の助けになるよう、国道四十五号と三陸沿岸道路の法面に、津波避難階段を整備したものです。



また、昨年度は、防災教育にも力を入れ、家庭教育講演会では、盛岡気象台の防災気象官を講師として、身近に起こる自然災害と情報収集や防災における行動に関する講演会を実施しました。

近年、台風や大雨により大きな被害を受けることが多く見られます。身近に起きる大雨や土砂災害等、水に関する学習を通し、災害への対応について学習しました。児童や保護者が身近に起こり得る災害から、自分の命を守る行動について情報共有しました。災害は「まさか」ではなく「いつか」起きるものと認識

し、決して自分は大丈夫と思わず、情報を正しく受け止め、今まで大丈夫だったからとか、誰も避難していないから等の偏見を持たず、自分の命は自分で守ることが大切であることを学びました。

地域と関わる学習として、「全校ウォークラリー」を実施しています。子どもたちは、六年間をかけて、新沼小学校の学区全体を歩き回り、地域についていろいろなことを学ぶ機会となります。ウォークラリーの後には、震災等の緊急事態に備え、子どもたちが火おこしをし、協力して、鍋を作る活動にも取り組んでいます。

東日本大震災から八年三ヶ月が過ぎようとする今、現在二年生の児童がその年に生まれ、高学年の児童でもその記憶が薄れてきています。東日本大震災の体験から得られた「いきる」「かかわる」「そなえる」の価値を学校経営に位置づけ、一人ひとりの子どもが、自分で情報を把握し、主体的に判断できる力を身に付けさせ、自分の命は、自分で守れる子どもへの育成にこれからも取り組んでいきたいと思えます。

(一関市立新沼小学校

校長 大堀 徹)

令和元年度

岩手県小学校長会役員

会長（1名）

盛岡地区 盛岡市立仙北小学校長 佐藤 卓さとう たかし

副会長（4名）

盛岡地区 盛岡市立仁王小学校長 仁昌寺真一にしやうじしんいち

花巻地区 花巻市立桜台小学校長 佐藤 恵さとう けい

気仙地区 大船渡市立赤崎小学校長 薄衣 裕昭うすぎ ひろあき

二戸地区 二戸市立福岡小学校長 新毛 公生しんけ きみお

会計監事（3名）

紫波地区 紫波町立長岡小学校長 舘脇 敏朗たてわき としろう

胆江地区 奥州市立胆沢第一小学校長 高橋 浩喜たかはし こうき

宮古地区 宮古市立重茂小学校長 坂下 正義さかした まさよし

常任理事（5名）

総務部・事務局長 盛岡市立中野小学校長 太田 勝浩おおた かつひろ

行財政部 盛岡市立本宮小学校長 古玉 忠昭こたま ただあき

研修部 盛岡市立緑が丘小学校長 久保 智克くぼ としかつ

広報・編集部 盛岡市立飯岡小学校長 石橋多賀子いしばしたかこ

生徒指導部 盛岡市立向中野小学校長 中村 雅彦なかむら まさひこ

事務局（2名）

事務局長 太田 勝浩おおた かつひろ

常勤書記 石亀 智美いしがめ さとみ

理事

評議員

地区名	学校名	理事氏名	学校名	評議員氏名	学校名	評議員氏名
盛岡	厨川	山崎伸一	杜陵	村中ゆり子	上田	近藤尚樹
			北厨川	川上良治		
			岩手	大更		
紫波	日詰	伊東雅美	煙山	小笠原安和		
花巻	桜台	佐藤恵	矢沢	小島正弘		
遠野	上郷	佐藤健一	遠野	細川昭子		
和賀	沢内	深沢一男	南	千葉浩		
胆江	水沢	高橋豊和	水沢南	西前和恵	江刺愛宕	佐々木孝義
一関	一関	吉野新平	萩荘	門間健一	川崎	藤野清貴
気仙	赤崎	薄衣裕昭	大船渡	三浦和人	大船渡北	藤村敏夫
釜石	吉里吉里	今野利恵子	甲子	菅原正樹		
宮古	藤原	川戸司朗	亀岳	一條直人		
久慈	久慈	坂川孝志	夏井	船渡正勝	種市	太田武邦
二戸	福岡	新毛公生	金田一	西舘修	小軽米	小田島誠一

専門部担当理事・専門委員等

(◎は部長)

総務部担当理事 (6名)

仁昌寺真一 (盛岡・仁王)
 山崎伸一 (盛岡・厨川)
 佐藤 恵 (花巻・桜台)
 薄衣裕昭 (気仙・赤崎)
 新毛公生 (二戸・福岡)
 ◎太田勝浩 (盛岡・中野)

行財政部担当理事 (3名)

大谷冬太 (岩手・大更)
 伊東雅美 (紫波・日詰)
 ◎古玉忠昭 (盛岡・本宮)

研修部担当理事 (3名)

高橋豊和 (胆江・水沢)
 坂川孝志 (久慈・久慈)
 ◎久保智克 (盛岡・緑が丘)

広報・編集部担当理事 (4名)

佐藤健一 (遠野・上郷)
 吉野新平 (一関・一関)
 今野利恵子 (釜石・吉里吉里)
 ◎石橋多賀子 (盛岡・飯岡)

生徒指導部担当理事 (3名)

深沢一男 (和賀・沢内)
 川戸司朗 (宮古・藤原)
 ◎中村雅彦 (盛岡・向中野)

行財政対策委員 (5名)

畠山雅之 (盛岡・土淵)

北田光志 (盛岡・山王)
 石川耕司 (盛岡・太田)
 松本正明 (盛岡・月が丘)
 佐々木伸 (盛岡・高松)

調査研究委員 (6名)

千葉亨 (盛岡・見前南)
 山本勉 (盛岡・大新)
 鈴木亨 (盛岡・松園)
 遠藤耕生 (盛岡・見前)
 武田伸一 (盛岡・玉山)
 加藤良 (盛岡・洪民)

広報・編集委員 (5名)

山口道明 (盛岡・山岸)
 小山田吉光 (盛岡・繫)
 宮崎正俊 (盛岡・城北)
 嶋野恵美子 (盛岡・東松園)
 佐々木勉 (盛岡・永井)

生徒指導委員 (5名)

佐々木由紀子 (盛岡・都南東)
 中館秀行 (盛岡・大慈寺)
 佐々木満 (盛岡・太田東)
 福島正徳 (盛岡・北松園)
 佐藤あい子 (盛岡・巻堀)

全連小理事 (2名)

佐藤卓 (盛岡・仙北)
 太田勝浩 (盛岡・中野)

全連小基金管理運営委員会 (1名)

仁昌寺真一 (盛岡・仁王)

全連小施設設備教材等委員会 (1名)

中村雅彦 (盛岡・向中野)

全連小各部担当者 (3名)

(1) 対策担当者
 古玉忠昭 (盛岡・本宮)
 (2) 調査研究担当者
 久保智克 (盛岡・緑が丘)
 (3) 広報担当者
 石橋多賀子 (盛岡・飯岡)

全連小総会代議員 (3名)

小笠原安和 (紫波・煙山)
 高橋豊和 (胆江・水沢)
 吉野新平 (一関・一関)

東北連小理事 (2名)

佐藤卓 (盛岡・仙北)
 仁昌寺真一 (盛岡・仁王)

東北連小監事 (1名)

石橋多賀子 (盛岡・飯岡)

東北連小委員 (2名)

(1) 教育課程委員
 久保智克 (盛岡・緑が丘)
 (2) 対策委員
 古玉忠昭 (盛岡・本宮)



理事会・評議員会合同会議



行財政部合同会議



生徒指導部合同会議

編集後記

総会において、会長に選出された佐藤卓校長は、「震災以来、会員の総意として大切にしてきた『明日を拓く 岩手の絆』を心に刻み、岩手の復興教育を推進していくとともに、子どもたちの笑顔と輝く未来を願い、会員の英知と情熱を結集して様々な教育課題の解決に取り組んでいきたい」という熱い思いを会員に呼びかけました。また、佐藤博教育長は祝辞の中で、「県として新たに策定した『岩手県教育振興計画』の推進にあたっては、岩手だからこそできる教育、やるべき教育という視点を取り入れながら、夢と希望と勇気をもって学校経営に力を注いでいただきたい」と期待を述べられました。

時代は令和に変わりました。総会の日は、令和の出典のごとく、「春の好き月、空気は清く、風がやわらかな」一日でした。私たち小学校長会も和を尊び、会員の皆様の英知と情熱を結集して、子どもたちの笑顔と輝く未来のために、保護者や地域の信頼に応える確かな教育の実現に邁進してまいります。

(担当 石橋多賀子)